

自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3 年 5 月 17 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3474300245		
法人名	社会福祉法人 まり福社会		
事業所名	グループホームぬまくま		
所在地	広島県福山市沼隈町大字常石1284番地3		
	電話番号	084-987-4115	
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 20 日	評価結果市町村受理日	令和 3 年 5 月 24 日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	令和 3 年 4 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>瀬戸内海の穏やかな気候に恵まれた立地に加え、医療機関と同じ棟内にあるという充実した体制は、入居者のみなさまはもとより、ご家族の皆様にも安心頂けるものと思います。地域の方と触れ合いも大切にし、穏やかで落ち着いた生活を提供しています。「たんぼぼだより」は写真を中心に日常生活の様子を毎月の便りで届けています。食事は管理栄養士による献立と手作りの料理で高齢者にとって適量に食べやすい工夫をしています。職員は毎月の法人全体の医療、介護の勉強会、ホーム勉強会で学習し専門介護士としてスキルを高めています。モニタリング評価表では、項目ごとに、分類、評価をし、職員間で情報共有しサービスの質の向上に活かしています。一人ひとりの人生に必要な「居場所」であることが、何より認知症のケアになると考え、ご入居者様一人ひとりに寄り添った介護を提供しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>瀬戸内の穏やかな海と自然豊かな山に囲まれ、景色の移り変わりで季節が感じられ穏やかに過ごせるという恵まれた環境であると共に医療機関と同一の棟内にあり、急変時に速やかに対応できる体制が整っている。また、看護師や理学療法士、歯科衛生士、栄養士等も定期的に訪問され、それぞれの専門分野での健康管理が充実している。ケア面に於いても、個々を尊重し、馴染みの場所で地域の方々との関係を築き、日々の会話を大切に一人ひとりに寄り添い思い耳を傾け、心穏やかに自分らしく生活してもらおうと共にその人のできる事は職員と共に行い、力量発揮の場面作りをし、張りのある生活ができる様支援されている。また、コロナ感染予防の為、家族の訪問が制限されている中、毎月のホーム便り(写真付き)と共に日々の状況をお手紙を添え送付し現状把握してもらい安心して頂くよう努めている。現状では外出支援もできない中、室内行事を多く持ち、気分転換や楽しみごとに繋げている。食事に関しても管理栄養士がカロリー、栄養面等の管理をされ栄養バランスのとれた食事を提供し食を大切にされている。介護、医療、食、全てに於いて、充実した事業所となっている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と基本方針をもとに実践している。毎月のミーティング等で理念と方針を唱和を行い職員間で共有できるよう意識している。日々のケアにおいても理念に近づけるよう意識し取り組んでいる。	理念や方針等は誰もが、見え易い場所に掲示されていると共に毎月のミーティングで唱和し、振り返る機会と反省に繋がられている。また、改めて認識し実践する様取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染の影響もあり、ホームの大きな行事などへの参加を、ご遠慮いただいている。地域との関わりが減ってきている中でも、ホームに関心を持っていただけるよう、広報便り等で情報発信を行っている。	地域の行事に参加したり、事業所の行事にも参加してもらい日常的に交流していたが、今はコロナ感染予防の為、すべての行事が中止となり、交流は以前のように出来ていないがホーム便りを公民館等に届け現状把握をしてもらい、理解を得る働きかけをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染の関係で当面の間開催できていない。広報便りなどで、ホームで行っている日々の認知症ケア(入居者との関わり)について情報を発信させていただき、ホームの活動にご理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染の影響で運営推進会議開催できていない。まちづくり委員会等に参加させていただき、ホームでの活動報告や意見交換などを行い、サービスの質向上に努めている。	コロナ禍の為、以前の様な形式の会議は出来ないが、現状や取り組み等について2ヶ月毎にホーム便りと共に書類にて行政や委員の方々に報告し、理解してもらう中で意見を得、サービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保健福祉担当者・地域包括支援センター担当者・公民館・派出所と連携を取り意見交換をしながら取り組んでいる。事業所の実情やケアサービスへの取組みをお伝えしていく中で協力関係を築いている。	行政担当者や包括支援センター等へ、現状や取り組み状況を積極的に伝え、その中でアドバイスや情報提供等を得、協力関係は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の勉強会・ホーム勉強会・ミーティングの課題としても取り上げ話し合いを行う中で理解し知識を深めながら、共通の認識で取り組んでいる。現在は新型コロナウイルス感染の為、身体拘束廃止委員会・3G会議を行っていないが、ガイドラインを再確認し合い、身体拘束をしないケアに努めている。	基本身体拘束はしない方針である。資料を基に内部研修を行い、具体的な行為について正しく理解し、不穏な方には会話時間を十分とり、気分転換出来る支援に努め、見守り強化と抑圧しない支援を心掛けている。玄関の施錠を含め身体拘束はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	新型コロナウイルス感染の影響で法人の勉強会は、当面開催を控えている状況だが、資料やDVDにて内容を確認する等、各自で自己学習を行っている。ホーム勉強会やミーティングでは、テレビや新聞等で取り上げられている、実際に起こった高齢者虐待について皆で日頃のケアについて考えたり、見直しをする機会を設け、情報を共有したり意識を高めていく課程で虐待防止・予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支	共通の認識となるよう、個々に必要な制度の関係者と情報交換し、関係機関と連携しながら、その人に必要な制度の活用について支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な契約内容等の説明を行い、その上でお互いが納得し、合意した上で手続きを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染の為面会は出来ないが、いつでも相談や苦情について遠慮なく言ってもらえるよう説明し、理解を得ている。	家族の訪問は出来ないが、毎月、ホーム便りと共に個々の生活状況について手紙を添え報告する中で意見や要望の把握に努めている。信頼関係が築かれ、気軽に言われる。その中で意見等は反映させると共に個々にも対応している。家族からお手紙が届く事もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の部門ミーティングや各階のミーティング・ホーム勉強会等でその都度話し合い、方向性を見出している。	ミーティングやユニット会議等で、意見や提案を聞く機会を設けている。また、日々気づきがあればその都度、聞いている。それぞれの場面での意見等全職員で検討し、運営に反映させている。個人面談も年1回ある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に年間目標を掲げ自己評価を行い、一定の時期に上司がヒヤリング等を行っている。その評価を職員にフィードバックし、職員が向上心を持って働けるよう努めている。また、意向調査を実施し参考にさせてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染の為、外部研修には参加できていない。内部研修は、少人数で勉強会を行い、職員の力量向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染の為地域のグループホームと入居者の交流会・勉強会等が出来ていないが、常にサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学や面接を通して、本人家族の要望などを聞いたり、話しやすい状況を作り出している。職員同士も話し合い共有の支援策を考えている。新型コロナウイルス感染の為、家族との電話での対応なども行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話の中で不安を受け止め、説明やホーム見学の機会を設け、理解と安心してもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から事情を聴き、ホームでのサービスの説明や他のサービスについても説明や紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者が一緒にできる事をしている。できない事は、各自サポートしながら本人に寄り添い言葉を傾聴し、家族のような関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、入居者さまの近況報告や相談を行っている。家族の方にも、出来る支援をして頂き、職員と家族が一体となった関係を築くようにしているが、現在新型コロナウイルス感染予防の為、面会は行えていない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響の為、面会が出来なくなったが、電話での対応となっている。沼隈病院以外の受診は、家族が付き添っている。	コロナ感染予防の為、家族の面会も出来ないが、訪問され場合は玄関のドア越しにお互いの顔を見ていただいている。できるだけ疎遠にならないように電話の取り次ぎなどしている。手紙が届く方もいる。また、馴染みの場所(フクロウの里へ芝桜見学、グリーンラインまでドライブしたり、途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで一緒に食事やお茶を飲みながら、昔話をされたり、毎日のリハビリ体操をしたり、洗濯物を干したり・畳んだりを日常的に行い、入居者同士が支えあい孤立しないように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、ご家族からの相談を受けたりしている。これまでの関係性を断ち切ることなく、必要に応じて本人・家族のフォローを行うなど、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人と向き合う中で、職員がコミュニケーションを取り、本人から希望や志向を把握し、出来る限り実現できるよう努めている。また、ご家族からも様々な情報を伺ったり、本人の心身状態に考慮しながら、カンファレンスなど開催し、検討の材料としている。	日々の会話を大切にし、その中から汲み取る事が多く、本人の気が済むまで聞いてあげ、思いを受け止め、可能な限り意向に沿うように努めている。食べ物等の希望が出るので季節感のあるおやつ作りを多くしている。表出困難の方には声かけの中でその時の表情から把握し検討している。家族から情報を得る事もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報は、本人やご家族とのコミュニケーションの中から拾ったり、聴き取り調査等も行っている。同じ地域で生活を共にされていた馴染みの関係性を保つ事で、生活環境を整えて頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人が思い通りに過ごせるよう出来る限り環境を整えている。(集団生活の為、難しい場面もあるが)また、職員それぞれが申し送りノートや経過記録から入居者の状況把握、周知に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族からの希望や思いを聞き、出来る限り沢山の職種を巻き込みながら、意見を出し合い、チーム全体でアプローチを図れるよう意識をし、取り組んでいる。また、その話し合いを生かした介護計画が作成出来るよう、努力している。	家族、本人の要望、主治医の所見、課題やニーズについての職員の意見、また、各専門職(理学療法士、栄養士、看護師など)等の意見を基に担当者会議で検討し、それぞれの関係者の意見を反映させ、柔軟且つ現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践について結果や気づきなどから、職員同士で情報を共有し合い、“よりよい介護”“質の高いケア”につとめている。また、結果や気づきに対する評価を行い、ケアや介護計画へ反映していけるよう意識し、取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関との連携、訪問診療・訪問看護の支援を行っている。本人や家族の状況を理解・把握した上でそれぞれのニーズに合わせた臨機応変な対応・サービスの提供が出来るよう、職員一同心がけながら支援・ケアに臨んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年ボランティア・小学校・公民館など地域の方々に協力してもらい、行事に参加していただけるように支援していたが、今年は新型コロナウイルス感染対策の為、地域の行事・ホームの行事も中止となった。入居者・職員でホーム内で季節を感じられる催しを行い、楽しい時間を過ごしていただけたようにした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の病院からの訪問診療や協力医療機関の受診を支援している。本人・家族の希望を大切に、情報交換を行い、納得と理解の上でかかりつけ医から適切な医療・治療を受けられるよう支援している。	訪問診療が月2回、歯科衛生士や理学療法士、栄養士等の専門職の方が定期的に訪問されていると共に併設の看護師も訪問し色々な専門分野の方々で健康管理されている。状態変化にも早く気づき、適切な医療が受けられ、安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携し、24時間対応している。日常の健康管理のチェックやアドバイス・相談などの対応をしている。夜間帯での急変など、連絡・相談し適切な指示のもと、受診や看護を受け入れられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者・家族と連絡を取り合い、入院時には医師や専門職の方と連携を取り、早期に退院できるように努めている。退院後のケアに向け、準備を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人やご家族に入居時・入居後には随時話し合いをし理解を得ている。また、看取り介護の勉強会等で話し合い学んでいる。(看取り介護のガイドライン)医師と看護師と対応を検討し、支援に取り組んでいる。地域初期支援者からの協力も得ている。	利用開始時指針を基に説明し、理解は得られている。体調変化が起きた場合は主治医、看護師、家族、職員等で話し合い、その都度、家族に意向の確認を行い、方針を共有しチームで支援に取り組まれている。看取りの勉強もしている。看取り体験もされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医療機関・救急蘇生委員会から看護師を講師を迎え、急変時の対応について「BLS講習」「AED講習」などの勉強会を定期的に行っているが、今年は新型コロナウイルス感染の為、できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署・地域初期支援者の協力で、消防訓練を実施しているが、本年度は、新型コロナウイルス感染対策の為、地域の方や家族会の方には参加して頂かずに行った。自動通報装置を設置し、日中想定した通報・避難訓練を常石医院と合同で実施。	年2回、併設の医療機関と共に通報、消火、避難等の訓練を実施し、実践力を身につけ、慌てず速やかに対応できる様取り組まれている。日中、夜間を想定し、火元もその都度変更して行っている。避難確認の工夫もされていると共に備蓄もしている。今回はコロナ感染予防の為、地域の方の参加依頼はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の訴えや思いに耳を傾け、言葉を選び声掛けを行っている。申し送りなど本人の話をする時は、場所を変えたり、直接声に出すのではなく番号(居室)などを用いて行い、プライバシーの保護に努めている。	生活歴を十分把握し、その人にあった声かけや対応をする様周知している。トイレ、入浴時の声かけもプライバシーに気を付け、職員間でも気付いた時には御互いに注意し合っている。どのような状態になっても個々の尊厳を大切に、人生の先輩であると言う事を念頭に対応する様心掛けている。研修も定期的に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望・訴えに寄り添うことができるよう働きかけている。自分の思いや気持ちを表現することが難しい利用者には、日々の中でコミュニケーションをはかり、関わりを持つようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、利用者に合わせた自分らしい生活が送れるよう声掛け・環境整備等行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	新型コロナウイルス感染の為、定期的に散髪が出来ていない。くし等を使って身だしなみを整えたり、本人が着たい服を選べるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会や行事の際には、入居者の好みや希望に合わせたメニューを考えている。個々に応じて食材を食器に盛り付けてもらったり、テーブル拭きや食器洗いなど、一緒に行ってもらっている。	その日のメニューを掲示している。ミキサー食、刻みトロミ食等、身体状況に合わせた形態となっている。管理栄養士がカロリー計算を行ったメニューで栄養管理されている。力量により出来る事をしてもらい張りのある生活に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもと、個人の食べやすい食事形態(ミキサー・キザミ食)にして提供している。水分管理や体調によっては、栄養補助食品等を提供するなどをし、栄養バランスなどに気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に1回歯科衛生士等の訪問があり、一人一人に合った口腔ケアのやり方をアドバイス貰っている。個人の状態に合わせ、歯ブラシ・スポンジ・口腔ウェットティッシュを使うと共に、声かけ・介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の生活リズムを把握し、排泄パターンや習慣を大切にしながら、自立に向けた排泄支援を行っている。また、可能な限りトイレ・PTイレに誘導し、自力で安全に気持ちよく排泄動作を行えるように支援している。	個々の時間帯で声かけし、日中はできるだけトイレでの排泄に努め、機能維持、生活習慣を活かすと共に気持ち良く排泄できる支援を心掛けている。自立の方もいる。排便チェックも行い、便秘がちな方にはお腹のマッサージや温める等の工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	声かけし、毎日のラジオ体操・ストレッチ体操などで楽しく体を動かして頂きながら、個々にあった食事・水分を提供、美味しく摂取していただく事で、自然排便に繋がるよう心がけている。排便コントロールが必要な場合は、主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2～3回の入浴になっているが、希望があれば臨機応変に対応している。入浴の声かけをしても嫌がられるとき等は、利用者の状態に合わせて対応し、状況により清拭に変更したり、工夫をしながら、気持ちよく・負担無く清潔保持に努めている。一般浴が難しい方には、特殊浴槽にて入浴していただいている。	週2回、となっているが希望があれば回数は自由に時間帯もその時々で柔軟にし、楽しく入浴してもらえるよう支援している。特浴もあり、身体状況にあわせた対応で清潔保持に努めている。拒否の方には無理強いせず、曜日を変えたり、タイミングを見ながら清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や体調を把握し適切な室温・湿度などに気をつけながら、安心できる空間を提供している。一人一人のペースで過ごして頂きながら、ゆったりと穏やかに休息・良眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師から効能・用法について説明を受け理解し、症状の変化や状態について報告している。服用時には、名前等声だし確認し、手渡し、ご自分で服用できない方には口に入れさせて頂くなど介助をさせてもらい、飲み終わるのを確認してから、チェックリストに印を押し、誤薬の帽子に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きなこと・興味のありそうな事、できる事は積極的に声かけし、行って頂けるよう支援している。洗濯物干しや、タオル畳み・フラワーアレンジメント・ドリル・ぬり絵など、提供する事で、日々の生活にメリハリをつけ、日課・役割と共に気分転換・やりがい・喜びが得られるよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染の影響により、外出ができない状況の中、車から降りて楽しむ事は難しくても、ドライブに出掛け、窓から景色を覗き、季節感を感じて頂くなど工夫しながら支援を行っている。	コロナ禍の為、以前の様には外出できないが、ドライブで芝桜や藤の花を見に行かされている。車の窓から見る事しかできないが、気分転換や五感刺激に繋がってもらうと共に季節を感じてもらっている。現状では室内行事(貼り絵、塗り絵)又、レクリエーションやおやつ作り等楽しんでもらっている。希望があれば散歩などはしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が出来る方には、ご家族の了解を得て、所持していただいている。管理が難しい方には、預かり金として預かり、本人の希望する時に渡したりしていたが、現在は、新型コロナウイルス感染の為買い物に行く事ができていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時、相手先を確認し電話の利用を支援している。また、家族からの電話がある時も、本人へ直接お話をしていただける様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	造船の街並みや、瀬戸内の海。季節ごとに色あいの変わる山などに恵まれた立地。整理整頓に心がけ、明るく不快な音や臭いのない環境を提供している。机やロビーも季節のお花やオブジェにより、より一層季節感を感じて生活して頂けるように工夫している。	玄関には季節のお花が生けら、廊下やリビングには季節ごとの作品や装飾品等が飾られ、窓際にソファもあり、そこでゆっくりとお話し等される事もある。リビングの窓からは山合の色の移り変わりで四季が感じら馴染みのある環境の中で穏やかに過ごされている。清掃も行き届き不快な匂いや死角もなく安全に過ごす事ができる共有の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテレビや畳などを配置し家の居間を感じられるような環境づくりを行っている。廊下の窓際にはソファを配置し外の風景を眺めたり、日光浴を楽しまれたり一人の時間を過ごされたり、気の合った利用者同士の談話場所にもなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者やご家族と相談し、使い慣れた家具の配置や思い出の写真等を掲示し本人にとって居心地の良い環境で過ごしていただけるよう工夫している。	家具(タンス、イス等)やテレビ、また、家族との思い出の写真、作成された作品、習字等も飾れ、自宅の延長線になる様配慮され、違和感なく落ちついて過ごせる環境作りをしている。時計やカレンダー等もあり、時の認識に繋がられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には個々の表札がある。食堂や洗面所・お手洗いや浴室なども大きく分かりやすい表示にしており、利用しやすく工夫している。移動も、歩行・車椅子に関わらず利用しやすい環境にしている。カーテンやすだれで強い光にも対応している。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼすべての家族と
		○	②利用者の2/3くらい			○	②家族の2/3くらい
			③利用者の1/3くらい				③家族の1/3くらい
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある			○	③たまに
			④ほとんどない			○	④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②利用者の2/3くらいが			○	②少しづつ増えている
			③利用者の1/3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている		①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②利用者の2/3くらいが				②職員の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが			○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが			○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが			○	②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

(別紙4(2))

事業所名: グループホームぬまくま

作成日: 令和 3 年 5 月 24 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	38	フロアによって違いがあり、職員の勤務体制によっては、入居者との関わり合いができていない時がある。	他のフロアが協力することにより、一日の内で、ゆとりの持てる時間を作るようにする。	運営推進会議で消防署、運営推進会議構成員、入居者家族等の協力の下合同避難訓練を実施し、実際に避難誘導して頂き、地域の方々の協力を働き掛ける。又、火災報知器の使用 방법에於いては、朝の申し送り時間を利用し、定期的に周知徹底する事で、職員全員がいついかなる時でも使用に耐え得る環境を目指す。	6ヶ月
2	12	日々の業務で職員間の情報伝達(入居者の状況、事務連絡等)が十分にできない事がある。	情報の交換の徹底、職員同士で声を掛け合い、情報共有出来る。	朝の仕事はじめの申し送りの時に、一日の流れを話し合い(重要項目はよくわかるところに記載)余裕を持って勤務に入り、できるだけ申し送りの流れに沿って動く。	6ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。